

第2回当別町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会 会議要旨

- 1 日 時 平成29年3月22日(水) 13時00分から15時20分
- 2 場 所 当別町役場 1階 大会議室
- 3 出席委員 山田委員長、黒澤副委員長、宮崎委員、佐々木委員、今田委員、田口委員
佐藤委員
- 4 欠席委員 川村委員
- 5 町出席者 二木部長、長谷川課長、小畑係長、根府主事
- 6 傍聴者 なし
- 7 会議要旨

(1) 委員長挨拶(要旨)

委員の皆さまにおかれましては、年度末のお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。今回は、昨年の8月22日に開催し、地方創生先行型の個別事業について議論を行ってしばらく時間が経過しました。半年以上経過しましたが、その間町の方で戦略の推進に努めていると思いますが、総合戦略の策定から1年半が経過しました。総合戦略の各重点推進プロジェクトについての現在の進行状況と平成29年度に向けての展望を事務局から説明を受け、皆様と議論を行っていききたいと思います。重点推進プロジェクトは14本ありますので、今回ですべての結論ということにはなりません。6月までを目途に推進委員会としての意見をとりまとめていきたいと思っておりますので、本日はよろしく申し上げます。

(議題)

(2) 総合戦略の進捗状況について 資料1 ~長谷川課長説明

委員会については、当初12月頃を予定する旨申し上げていましたが、次年度に向けた方向性が予算編成の中で協議・修正していたこともあり、新年度予算が確定したこのタイミングとさせていただきます。本日は、平成28年度までの取り組み状況と平成29年度の方向性と予算の編成状況を説明させていただきます。本日も質疑や意見をいただきながら、次回の会議で論点整理をさせていただきますと思います。また、すぐに質問・意見ができないものについては、今月(3月)末日迄にメール等で意見をいただければと思います。次回はゴールデンウィーク後を予定し、更に具体的な施策の説明の場合は、担当課を同席させて、ヒアリング等を行っていききたいと思います。必要によっては、重点推進プロジェクトに意見を付すことや戦略自体の見直し、KPIの修正の議論もいただきますようお願いいたします。(以後調書に基づき、基本目標ごとに説明)

<基本目標1に対する質疑>

佐々木委員~道の駅の tobe(トゥービー)が地域商社になると思うが、指定管理者は

別の会社となりますか。道の駅は、ハードだけでは駄目で、マーケティング能力のある人が運営することが重要で、駅長や店長候補の方がその分野に長けた人とするべきで、どのようなバックグラウンドをお持ちの方を確保されていて、今後どのような人を加えていくことを想定しているのか。また、創業支援の8件はどのような業種となっていますか。

(事務局) ~ 駅長に関しましては、道内百貨店のバイヤーを長く勤めておりました方を駅長として任用しております。店長候補としては、同じく農産品や加工品を扱っていた商事会社に勤めていた方を任用しております。また、課題としては、三セク会社として経営していく上での、経理担当の精通者の人材が確保できていない状況であり、年度明け早々に任用していきたい状況となっております。

新規創業の内訳としては、平成31年度目標が8件で、平成27年度の実績としては、どちらも個人事業主で「パン屋」と「墓石や庭石等各種石の卸売」をする方が創業しております。

佐々木委員 ~ 1点目の道の駅はオープンが近づいており成功・失敗の鍵は、マーケティング力にあるので、人の準備がどのようになっているのかが気になりました。2点目の創業支援は、モデル事業を見せていかないとなかなか次に繋がる人が出てこないことやビジネスモデルを磨いていくことが大事だと思います。

黒澤副委員長 ~ 資料P2の食の総合拠点プロジェクトに係る企業と何件か交渉していることですが、達成の課題であるインフラ整備について、その状況を改善したら企業誘致が進むことがあるのですか。

(事務局) ~ 現状、町は工業団地形成を行っておりませんので、民有地または工業団地整備を行っていない町有地をベースに企業誘致活動を行っておりますが、上下水道が整備されていることや高圧電源があるとか、いろいろな条件が問われる。都市計画上きちんと色分けして整理していればクリアできますが、進出企業が求める条件と町が来てほしい条件の中でインフラ整備状況が合致しなければ厳しく、企業が自費で整備してくれて進出してくれた事例はありますが、そのような企業ばかりではないので、ハード整備を考えていかなければならないことが、役場の中での大きな議論を占めている。

黒澤副委員長 ~ 仮に企業に来てもらった後、町としてはどのようなイメージをしているのか。

(事務局) ~ 水道料の減免や会社が新規雇用した場合の、会社に対する補助制度等があり、当別町企業立地条例を最近改正しております。ただ、企業は支援メニューだけではなく、進出する際の初期投資費用をどれだけ抑えられるかがキーポイントとなります。また、食品加工業であれば、町の特産品に何があるかも重要で、例えばポテトチップ工場であれば、じゃがいもが供給できるか、おこのみ焼きの加工の会社であれば、キャベツや小麦はあるか等、当別町の産品を一定数量供給できるかが問われます。

この部分については、生産体制等農協と詰めていかなければならなく、個別案件があれば、詳細に詰めていくことが必要なこと等、整理する課題があります。

黒澤副委員長～植物工場はどのようなものですか。

(事務局)～室内で育てる野菜が主で、町が水耕栽培の実証実験を行っているいちごやサニーレタス等、内部環境をコントロールして栽培するもので、冬期間でも生産ができるので、町としても注目しており、そのような企業に来ていただけるとありがたい、そのような観点で企業にお声掛けをしているところです。

宮崎委員～農業と道の駅との関連ですけど、総合戦略の10Pを見ると、就業者数が低下していて、町内雇用環境の創出と就業者の流出が増えているとあるが、本日の資料の4Pには、「生産拡大が急がれるが、全産業で労働力不足が顕在化されている」とあり、P6には、「パート雇用確保も難しい」とあり、労働力の需要側ではなくて供給側の問題と記載されている。つまり、いくら雇用を生んでも供給される労働力がないということになると思うが、これに対してどのような対策をしていくのか、また、どのようなシナリオがあるのか。

(事務局)～非常に難しいところではありますが、パート労働力は必要な分野は結構あります。例えば、道の駅やロイズ等の工場については、パート労働力を必要としているが、非正規職員ですのでそのような業種を求めている町民が少ないと思われます。その部分で、需要と供給のミスマッチが発生していますが、それを解消する施策までは現段階では持ち合わせていません。農業生産の部分でも同様で、野菜を作るには人手が必要であり、でめんさんというパート労働力が必要で、道の駅で売る野菜も労働力がかかりパート不足で困っている状況で、人材確保ができないと道の駅で野菜が並ぶかということとなる。そのような部分を解決するために、農協を通じて大学生のアルバイト等のなげかけをさせていただいている。現状の良策はなく、非常に悩ましい課題である。委員の皆さまからもお知恵をいただければと思っています。

宮崎委員～産業力の項目は、雇用を創出して所得を増やしますとしており、働きたくても働く場所がない人に雇用を提供して所得を増やすと見えますが、実は、労働力の供給と需要の人数にミスマッチがあり、そのミスマッチをどう埋めるのかとか、実は新規雇用創出の質が違うのか等、目標達成までのシナリオを庁内で詰めることを考えた方がいいのではないのかということです。

<基本目標2に対する質疑>

田口委員～太陽光発電の合計値について、民間の太陽光パネルは入っていますか。

(事務局)～あくまでも町で設置した太陽光パネルとなっております。

田口委員～バイオマスの関係、ペレットのお話は聞きましたが、「薪」も入りますか。

(事務局)～薪は入っていません。

田口委員～町内会のLED事業、予算492万円ですが、補助率はどうなっていますか。町内会財政が破綻しているとお聞きしているので。

(事務局) ~ 補助率が半分で、上限30万円となっている。町内会も先を見通して積極的にやっている町内会もある。町としては、地方創生の先行型を活用して補助金を増やしてから、それを継続してやっている。

佐藤委員 ~ 町内会の補助の上限は30万円となっており、お金の無い町内会は実施することができない。財源のあるところは、LED化をしているが、行った結果電気料金が安くなって、「街路灯の維持に係る補助」に関する補助金が減ってしまって、町内会にとっては、意味がないのではないかという話もある。ヒルズは400万円程使ってLED化をしている。町内会の街路灯はLED化をしているが、町の街路灯(道路照明)はLED化になっていないのが問題である。まずは町の所有物を積極的に行うべきである。

(事務局) ~ 建設部局とその話はしていますが、道路照明の交換は高い費用がかかるような状況となっております。

佐藤委員 ~ 町道の街路灯は、国道、道道の街路灯に比べて劣化している。錆も出ており非常にみっともない。LED化以前に街路灯の整備をすることが必要。スウェーデンヒルズのことを言えば、全国的に人気が出てきており、お金を掛けて綺麗にしているが、町所有のものが古いままとなっておりみっともない。ヒルズだけにお金を掛けてという話にはならないが、人を呼ぶなら足元から綺麗にしていけないと駄目で、太美駅からスウェーデンヒルズまで繋がっている街路灯の修繕や現在高岡中央線の歩道を作っていることから、人が増えるきっかけになると思う。

山田委員長 ~ 町内会のことも含まれているので要望の一つとして整理させていただきます。

(事務局) ~ 推進委員会の中で強く、指摘があったということを経営者である建設課において道路照明のLED化にとどまらず、町に人を呼び込むために道路というのは町にとって最大の施設なのでしっかり整理をしていきたい。

<基本目標3に対する質疑>

田口委員 ~ 民間業者が商売をするということは、採算があればやりたいという事業者がたくさんあると思うが、現状アパートが建設されないということは採算が合わないということやアパート組合の入居率が95%というのは異常な数値である。何かしらの補助あるいは優遇策が必要。土地を無償で提供しても採算が合わない場合、固定資産税を減免するとか、家賃保証制度を行うとかの施策をもって今一步のところを補完して、誘致できればと思います。金融機関が地公体との間に入って条件のすり合わせを行うことはありますので、当別町ももう少しだと思いますので、町側から見ると譲歩となるがご検討をいただければと思います。

(事務局) ~ アパートの町内外の進出については、企業誘致や起業という部分もあるので、現状ある企業誘致の事業範囲の拡大や工夫が必要で担当課において検討しております。

佐藤委員～夏至祭がこの中では触れていないが、スウェーデンヒルズで行うにはもう限界かと思っている。来場者は6千人を超えており、今年は35周年で1万人規模になると思われる。前夜祭も行い、町からは150万円を補助するという事なので、もうこれは当別町の行事でないのか。夏至祭は、商工会とレクサンド交流協会が主となっていて、観光協会が入っていない。

山田委員長～当別レクサンド都市交流協会の副会長に当別町観光協会の会長は入っています。

(事務局)～確かに夏至祭も観光ツールの一つということはおもってもな事なので、整理をさせていただきます。

佐藤委員～規模を大きくすれば大きくできるイベントであるが、ヒルズ町内でやるには限界で、あれ以上の規模になると住民の生活破壊になる。

山田委員長～夏至祭の場所も含めて考えていかないとならない。

(事務局)～来場者が増えている理由は、やはりヒルズの景観がいいというお客さんが多いです。

佐藤委員～イベント会場は「道の駅」にするなど分散して行う必要がある。

(事務局)～夏至祭駐車場についても限界がきているのでトータルして考えていかなければならない時期にきている。

黒澤副委員長～コミュニティバスの西当別道の駅線は、何処とどこをつなぐものなのか。

(事務局)～出発(起点)はスウェーデンヒルズとなり、ヒルズからスウェーデン大通、太美西、太美スターライト市街地を2か所経由して、道の駅が終点となり、太美地域だけで完結する路線となることに加え、C C R Cの先行取組の位置づけとしてのバス路線でもあります。

黒澤副委員長～太美駅も経由するのですよね。

(事務局)～太美駅も経由します。従前から幹線はバス運行をしておりますし、プラスアルファとなる形です。従前より利便性が上がる形ですが乗り込み数の問題が課題としてありますので、常に見直しをしていく必要があると思います。

佐藤委員～道の駅に行くのに、往復400円かかるのであればなかなか行かないと思う。それを上回る魅力が道の駅にあるのかが重要で、「もの」と「イベント」が何よりも重要である。今とにかく多く人が集まっているのが、太美銘泉で土日は特に集まっている。イベントを多くやっていることに加え、広報で割引券を出している効果もあると思うが、当別町の人でない方が多くきており土日は駐車場に入れられないになっている。道の駅までは、小学生以下と65歳以上はやはり無料にして運行した方がいいと思う。

(事務局)～新年度は本格運行ではなく実証運行であるので、フレキシブルに国土交通省の許可をもらえる状況である。これが本格運行になって路線補助が入ると条件

が入りますが、今佐藤委員が仰った取り組みは、この1年間ではできると思います。
佐々木委員～道の駅はどのような戦略なのか。車で行く人を集めるのか、バスで集めようとしているのか、色々絞らないと難しいと思う。

(事務局)～やはり道の駅ですので第一義は車になります。バスがものすごく乗り込んでくるとは思っていませんが、バス路線もあることが他の施策と連動することができ重要である。無料化にすることで、高齢者や子供達が自分達で行くことができ、道の駅に足が向くことも重要である。

佐々木委員～収益性の問題もあるので全員に補助金を出す訳にはいかないの、メリハリをどうシミュレーションをしていくのかが重要で、まだ分析が十分でないと思うので分析をした上で、どこにメリハリをつけていくかとなると思う。

(事務局)～道の駅をなぜあの場所にした理由は、札幌市民に当別町に来てもらう大きな戦略がある。特に札幌市の北区、東区の40代から60代の女性層がひとつともう一つは、太美市街地に食品スーパー、飲食店がほとんどなく、消費が北区あいの里に逃げてしまっているが、太美地区には6千人住んでいるので、それらの消費行動を確保したい目途があり太美地区の方に利用を促す戦略から、公共交通のバス実証運行を行います。食品スーパー並みの品揃えは不可能ではあるが、町民は地元農産物をなかなか食べる機会が多くない。この道の駅で朝どり新鮮、安全の食材を消費していただいて、まちの経済を回していきたいと思っています。

佐々木委員～一定金額のものを買っていただいた方を無料とか、複合的、循環的に考えているのであれば、バスで料金をとらないで売上でまかなってもいいと思います。

(事務局)～事業主体側でサービスを行うことも重要であり、道の駅に地域商社であるトゥービーを立ち上げたので、トゥービー側で色々な戦略を予定していかなければならない。

黒澤副委員長～企業誘致の関係でイベント会社の誘致は考えているか。町内のイベントをそれぞれやるのではなく、計画的に行ってくれるイベントコーディネーションするような組織があれば効率的になると思います。

(事務局)～現状そのような動きはありませんが、観光協会が将来的に法人化に向け、あり方検討の作業に入っております。イベントについては、夏至祭やあそ雪はそれぞれの実行委員会、その他JA、商工会が企画しているものは、単体となっておりますが、実際に関わっている方は重複しているので、当別町版DMOを検討していくなかでの検討材料となる。

<基本目標4に対する質疑>

特になし

<全体質疑>

今田委員～本日の資料を公表するのであれば、整理して後に公表をする形にした方がいいと思う。

(事務局)～資料については、不十分な部分もありますので、最終形になった段階でホームページに公表したいと思います。

佐々木委員～いくつか課題の説明があった中で、人手不足といってもどの業種でどの層なのかとかの分析の深堀ができていないものが結構あると思います。分析の深堀がないと次の戦略が立てられないと思うので、次回までに委員の皆さまから指摘があった部分については、何故そうになっているかを踏まえて説明をいただければと思います。人手不足のミスマッチが分かっているのであれば、分析しないと駄目なことと、アパートの建設の関係も、最近相続税対策や学生が増えている背景がありながら、民間の建設が出ないのかが疑問である。長期の10年、20年でみると学生が減るからなのか等を踏まえないとアプローチができない。

(3) その他

今田委員が、平成29年4月1日付け人事異動により、異動となる旨挨拶あり。

(以 上)